

平成 28 年度 学校通信 3 月特別号 No. 13 【学校評価】	<h1>杭瀬小だより</h1>	尼崎市杭瀬北新町 2-6-1 尼崎市立杭瀬小学校 TEL06-6488-3581
---	-----------------	--

学校教育目標 めざす子ども像

学ぶ喜びを実感させ、心豊かで ○目標を持ち、自ら意欲的に学び続ける児童
 たくましい子どもの育成を図る ○集団の一員としての自覚を持った児童
○思いやりや感謝の気持ちを持った児童
○認め合い、励まし合い、高め合う児童

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる
主 な 取 組
<ul style="list-style-type: none"> ・少人数学習を実施し、個に応じたきめ細かい学習指導を行う。 ・放課後学習等を通じて、授業中につまずきのあった児童に対して丁寧な学習指導を徹底する。 ・家庭学習の記録やノートコンテストを活用し、家庭との連携を深め、家庭学習の定着を図る。 ・インクルーシブ教育をふまえ、ひとりひとりの発達段階に応じた指導に努める。 ・特に通常学級に在籍する支援を必要とする児童について全職員の共通理解を深め、合理的配慮に基づいた指導に努める。
課題・改善策など
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習への定着に努めてきたが、課題が残っている。今後とも指導を継続していかなければならない。 ・教師は研究推進での提案や研修に熱心に取り組んでいるが、それを児童へ 100%還元できていない。自己満足に陥らないように注意し、現在の取組に工夫を加え、改善していく必要がある。 ・特別支援コーディネーターを中心に支援を必要とする児童への理解を深めているが、今以上に児童理解を深める研究を創意工夫する必要がある。

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る
主 な 取 組
<ul style="list-style-type: none"> ・国や県の道徳副読本を活用し、人への思いやりを育む授業を行い、命の大切さやいじめを許さない心を培う。 ・道徳の授業を通じて、社会的な立ち位置を自覚し、将来社会に貢献できる素養を身につけさせる。 ・自分の夢や目標を見つけ、実現に向けて努力する姿勢を育む。
課題・改善策など
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教科化を意識し、教材研究の時間の確保や指導方法の充実のための研修参加などに努めていかなければならない。 ・不登校・遅刻傾向にある児童の家庭との連携の強化。家庭の協力を得るのが困難な場合、担任だけでなく、学年、学校全体で取り組むことが重要。 ・学校行事や様々な体験活動によって、児童の自己理解や自尊感情の育成に効果が現れている。 ・キャリア教育の観点からは不十分である。系統性のあるキャリア教育の年間計画を作成していく必要がある。

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む
主 な 取 組
<ul style="list-style-type: none"> ・給食指導やランチルームの活用により、正しい食習慣を身につけ、食への感謝の気持ちを育む。 ・体育大会や水泳記録会などの活動を通じ、諦めずに運動に取り組む姿勢を育成する。 ・日常の体育の授業のみならず、外遊びやペー斯拉ンニングなどの取組を通じて心身の強化を図る。
課題・改善策など
<ul style="list-style-type: none"> ・給食指導において、食べ物の大切さや栄養といった食育の観点では、一定の効果をあげられた。アレルギーへの対応も問題がなかった。 ・体育の年間計画に学習進度が追いつかない場合が見られた。カリキュラムを見直し、年間計画を再考する必要がある。

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る
主 な 取 組
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に校内の施設点検を行うとともに、通学路の安全確認を実施する。 ・警察の防犯ネット等を活用し、常に情報収集を図るとともに、必要に応じて情報を発信する。 ・大地震の教訓を生かし、防災教育の充実を図っている。(危機管理マニュアルの見直し・教職員の共通理解)
課題・改善策など
<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練・防災訓練では、授業中だけでなく、休憩時間中などあらゆる場面を想定した訓練ができた。その成果として鳥取県で発生した地震の際、訓練通りに対応、避難が迅速にできた。 ・避難所になった際の初期対応や児童の保護者への引き渡しもスムーズに行動できるように、マニュアルの見直しを含め、有事に備えてフォーマットを整えていく必要がある。

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む
主 な 取 組
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に研修に参加し、教職員は知識を深め、実践力を養い、指導力向上に努めている。 ・学社連携事業のモデル校として、コーディネーターを中心に地域、PTA、園田学園女子大学と連携し、小学校が地域の中心として役立つよう活動に努める。 ・学校だより、ホームページ等を活用した情報発信を積極的に行う。
課題・改善策など
<ul style="list-style-type: none"> ・共有可能な事務的業務のシステム化等に取り組むことで業務改善を進め、子どもと向き合う時間の確保やゆとりを生みだし、さらなる教師の資質向上につなげていきたい。 ・本校は地域学校協働活動の推進校に指定されている。月に 1 回、地域学校協働学習センター会議を催し、地域との連携を深めることができた。

教育目標
主 な 取 組
<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習や問題解決的な学習を各教科で取り入れ、学習への意欲・関心を高める。 ・人権教育や道徳教育、各教科や特別活動を通じて、命の大切さや他人への思いやりの心を育てる。 ・他人を認め、その長所を素直に褒める心を養い、互いに切磋琢磨し、高めあえる人間関係を培う。
課題・改善策など
<ul style="list-style-type: none"> ・健康・安全・生徒指導では、児童の育成が効果的になされている。しかしながら、主体的な学習への取り組みは不十分と言える。今までの取り組みの効果的な部分は継続し、さらなる創意工夫が必要である。

研究
主 な 取 組
研究テーマ「自分の考えを明らかにして、伝えあう力を育成する授業の創造」 <ul style="list-style-type: none"> ・国語科の学習活動を中心に、各教科での言語活動の充実を図り、児童の伝えあう力を育成することで思考力・判断力・表現力を育む。 ・聞く力・話す力を重視し、アクティブ・ラーニングを取り入れ、対話や少人数での話し合い等でコミュニケーション能力を高める。
課題・改善策など
<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実という観点から、指導方法の工夫を進めているが、児童の主体的な学びに必ずしも結びついていないのが課題である。 ・言語活動について、学年間の指導の系統性を正しく理解し、担当学年の児童に国語力を身につけさせる必要がある。「わかる喜び」は児童の学習意欲につながり、その根底には基礎学力定着と活用があることを忘れずに、指導しなければならない。 ・アクティブ・ラーニングの研究授業を実施し、指導助言を頂いたが、これからも研修を重ね、さらなる試行錯誤が必要と考える。



学校関係者評価

- 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる**
 - 少人数学習に応じたきめ細かい学習指導を継続する必要がある。
 - 落ち着いたある授業が展開されており、集中力のある子どもも多く感じる。
 - 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る**
 - 授業中の児童の表情を見ていると、生き生きとした表情の子が多い。
 - なお一層、道徳教育の充実が必要である。
 - 遅刻する児童を減らす指導を我慢強く継続していくことが必要である。
 - 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む**
 - ランチルームの活用が楽しい給食につながっている。
 - 食べ物への感謝の気持ちが大切である。
 - 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る**
 - 自然災害が増えてきているので、日常の指導、訓練が重要である。
 - 今後も防災行事を定期的に継続して実施することが必要である。
 - 防災訓練で保育所や地域住民との連携がとれている。
 - 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む**
 - 地域イベントの参加者が増加するようにこれからも工夫を重ねていくことが重要である。
 - 今後も地域の学校理解や協力を図るために様々な取り組みを継続していく必要がある。
 - 地域との連携について、啓発や情報発信を一層充実させることを継続する。
- 学校目標**
- 教育目標を達成するためには、学校だけでなく家庭の協力も必要であり、重要と考える。
- 研究**
- 「聞く」「話す」「伝える」が不十分な児童が少なくないので、この3つを研究テーマに設定したのは良いと思う。
 - 若い教職員が多いので、一層、指導力向上に力を入れなければならない。